

# 子どもの「科学の芽」を育てる 刈谷の教育

～問題解決学習の推進と地域との  
連携を通して～

地域の  
特色ある  
活動

愛知県刈谷市教育委員会

## 1 はじめに

本市は愛知県のほぼ中央に位置し、人口15万人余の西三河の中核都市です。

古くは刈谷城の城下町として栄え、大正期の豊田紡織試験工場の誘致により近代産業発展の足がかりを得て、現在では市の中央部に世界的な自動車関連産業の本社・工場が立ち並び、活気に満ちあふれています。また、フェライトの父・日本の発明王として知られる加藤与五郎博士をはじめ、時代の先駆けとなる多くの人材を輩出してきました。

このような長い歴史の中で、刈谷市は産業と文化が調和したものづくりのまちとして飛躍的に発展してきました。先人の創意工夫とたゆみない努力を受け継ぎ、将来にわたり持続可能な地域社会を形成するため、市民・企業・行政が共に支えあう「共存・協働のまちづくり」を推進し、将来都市像「人が輝く安心快適な産業文化都市」の実現を目指しています。

## 2 科学教育の推進に向けた取組

### (1) 問題解決的な理科学習

本市の教育大綱では、「共に生き、未来を創造する子ども」を育てたい子ども像に掲げています。その具現に向けて、「分かった」「できた」を実感できる問題解決学習を展開しています。その中でも、理科教育においては、観察や実験を中心とした探究型学習過程

を構想し、自然の事物や現象を分析的、総合的に考察し、筋道を立てて考える力の育成を目指しています。

昨年度、ソニー子ども科学教育プログラムにおいて、最優秀校に選ばれた朝日中学校では、「探究」をキーワードに研究実践に取り組んできました。「探究」＝「願い・疑問の芽生え→習得→活用」を基本とした単元を構想し、特に単元全体を通した探究心の継続のため、生徒の疑問を喚起する身近な事象との出会わせ方を工夫しました。また、地域の企業や施設の方々が講師となる科学教室や地区の協力を得ながらの発展学習を行い、地域とも連携しながら実践に取り組んできました。



朝日中学校の実践では、学びと出会う場面の工夫によって、子どもたちが強い問題意識に支えられながら学び続ける姿を見ることができました。今後は、学んだことが身近な生活でどのように活かされているかを考えたり、現代社会の問題についての解決策を考えたりする活動に発展させていきたいと考えて

います。

## (2) 児童生徒理科研究発表会

本研究発表会は、昭和 32 年に石田退三氏（元トヨタ自動車会長）からいただいた寄付をもとに、昨年度までに 66 回の発表会を積み重ねてきました。「次世代を担う子どもたちが、自然の事物・現象を探究する力や態度を身に付けてほしい。そして、自然の不思議を見つけ、それを追究することによって、科学する心を育ててほしい」という願いのもと、本研究発表会は行われています。

本研究発表会では、市内の小中学校で取り組まれた夏休みの理科研究や理科部・科学部の研究の成果が披露され、本市の科学教育発展の一翼を担ってきました。子どもたちが日頃の生活の中で見つけた事象に興味をもち、何度も実験して追究してきた研究を奨励し、広く学校教育に還元することを通して、今後も科学に興味をもち、自ら追究していく子どもたちを育てていきたいと考えています。

## (3) 石田科学賞児童生徒創意工夫作品展

本作品展は、昭和 35 年以来絶えることなく開催され、昨年度までに 63 回の作品展を積み重ねてきました。

身の回りの気付きから、創造力を駆使して作られた子どもたちの作品、市内の発明クラブ、企業、大学、高等学校などから提供された、子どもたちが実際に体験できる科学実験・工作教室、先端技術が紹介された展示コーナー等を設け、親子で科学技術に親しみ、楽しむことのできる作品展となっています。また、子どもたちの知的好奇心・探究心を高め、創意工夫する意欲の向上につながる取組となっています。

本作品展は学校内での教育活動にとどまらず、地域全体で子どもたちの科学の芽を育てている「ものづくりのまち刈谷」ならではの取組であると感じています。



小学校 2 年生が考えた創意工夫作品  
「おとさないくん」

手ぶくろをはめて、ブルーベリーやミニトマトをちぎって茶色の丸の中におとします。すると、ネットをとおってバケツにたまります。さいしょ、さかなとりあみを手にしばってやっていたら、あみにブルーベリーがたまり、手がおもたすぎてつかれてしまいました。それで、あみにあなをあけてかってにバケツに入るといいなと思い、作りました。

## 3 おわりに

子どもが身近な事象から抱く「なぜ」を大切に、「確かめてみたい」という追究意欲をかき立て、「分かった」「できた」と達成感や満足感を味わうことのできる問題解決学習を今後も推進し、子どもたちの知的好奇心や探究心を高めていきたいと考えています。

また、本市の科学教育は、地域に支えられながら発展してきました。今後も地元企業や教育機関の協力を仰ぎながら、地域で一丸となって子どもたちの科学の芽を育てていきたいと考えています。



教育長  
金原 宏